

5月の本ベスト5

1. 詩 little stone
in panic forest
並河進著

2. ジェネレーション・シフト
並河進著

3. 女のいのち男たち
村上春樹著

4. 時間という贈り物
-フランスの子育て-
飛幡祐規著

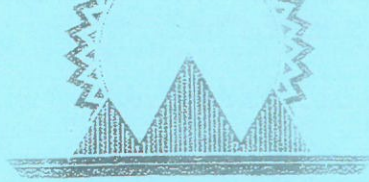
5. 青豆という

安西水丸・和田誠著

山陽堂だより 59

2014年6月水無月

YAMAYODO MOTEN



山陽堂書店

03-3401-1309

安西水丸さんの

お休みの

お知らせ

6月14日(土)お休み
いたします。
この日、雑誌記書籍
の入荷はありません。

5月の雑誌ベスト5

1. GINZA
2. BRUTUS
3. ティンカー・ブーク
4. フカロ、家庭画報
70L3PM
5. SPUR

お別れの会

お別れの会

5月29日(木) 青山葬儀所で3月19日に亡くなられた安西水丸さんの
お別れの会がありました。会場は青山墓地の一角にあり、
心地よい風のとある開放感のあるところでした。
水丸さんの作品が並べられた回廊をわたって会場に入ると、
野の草花に囲まれた水丸さんの写真がほほ笑んでいました。
ふと中庭に目をやると白いおそろい舞いこんできてしほらく花と
たわむれて、また高いところへとんでいきました。

お別れの会の司会は「水丸さん展」二人展を開催したリ本と共作する相棒でした。
とおっしゃる行ストレーターの和田誠さん。スピンオフは「安西水丸」と名のつれ
た見かろの二人で編集者・作家・エッセイストの嶺山光三郎さん。
週刊文春の連載でいっしょにお仕事とされていたエッセイスト・フォトジャーナリストの
平松洋子さん。wowwow 座の招得状でいっしょにお仕事をしていた
小山薫堂さん(映画「ふくひびく」脚本家)、俳句仲間であったピョアの
矢内廣さん。そして最後にマカシンのウスの木滑良久さんでした。
会場からは笑いかわくこともあり、水丸さんのお人柄が感じられるお別れの会
お別れの会でした。

この度のお別れの会では、山陽堂行ストレーターのスタジオの安西水丸さんの
最後の生誕の方たちもお手伝いをしていただきました。(一生)
「お別れの会」という最後の授業は、生誕の方たちにとって心に残るこの
できない勉強の場とふたようでした。(7月) みなさまのお越しを
お待ちしております
今年も安西水丸さんの個展「七夕の夜④」を開催いたします。

『10年前の5月25日。』

(山陽堂ホームページ ブログより)

山陽堂は家族経営の小さな本屋なので、産休も育休もない。
ちょうど今から10年前、妹は生後7ヶ月の赤ん坊といっしょに店に来て、仕事をしていた。
2階の事務室に赤ん坊を眠らせて、インターフォンの受話器をはずし、
1階レジのインターフォンから泣き声がきこえたら、すぐに2階にかけつけられるようにして
店番をしていた。

そのようなわけで、当時は毎日のように赤ん坊を連れて裏の善光寺さんに散歩に行っていた。
ある日、善光寺さんに遊びに行くと、いつもと様子がちがっていた。
本堂に向かって左側のところに、
お花やお供えがあり、お線香があげられるようになっていたのだ。

「なにか特別の日なのかな？」
と思って、帰りに仁王門の前に目をやると、
5月25日の空襲で亡くなった方たちの法要があるという掲示があった。
「ああ、いつもおばあちゃんが話していた空襲のあった日だったんだ。」
そのとき、私の中で、なにかが繋がった気がした。
というよりも、気づかされた気がしたのだ。

後日、善光寺さんにお話を伺うと、
戦後昭和40年まで現在のみずほ銀行横で、毎年法要が行われていたとのこと。
その後、善光寺さんが犠牲者の多かった場所の土を持ち帰り、その翌年に善光寺境内に
『戦災殉難者諸精霊供養塔』を建てたのだそう。
そして、毎年欠かさず5月25日の午後1時から法要をされているとのことだった。
何十年もの間法要をしてくださっていたことを、近所なのにも関わらず全く知らずにいた。

翌年は戦後60年ということで、新聞などで「山の手大空襲」のことが取り上げられ、
法要に参加される方も増えてきた。
そして、『表参道が燃えた日』という山の手大空襲の証言集が発売されたり、
みずほ銀行の横に慰霊碑も建てられた。

あれから10年、
一年に一度法要でお会いしていた方たちのお姿がだんだんと少なくなってきている。

あの時、赤ん坊がいなければ毎日のように善光寺さんに行くこともなかったし、
毎日行っていなければ、いつもとちがう様子に気づくこともなかっただろう。
あのとき、10年前の5月25日、なにかに？だれかに？気づかされたような気がしてならないのである。

「わすれないでね。」

…と。

今年の5月25日も青山の善光寺さんで法要がありました。
約60人位の参列者の中に三世代できている方が2組いました。
法要の後、戦後65年から朗読をしてくださっている俳優の矢田穂さんが、
「あの戦争を伝えたい」(岩波文庫)から『沖繩戦一肉親に手をかけ』、
「表参道が燃えた日」から『戦災犠牲者追悼碑によせて』、
秋田の詩人、故吉田朗さんの『やせんまこ、ちっとぼし』(秋田弁でお年玉を少しばかりという意味の詩は、
憲法9条こそが孫世代に渡せるお年玉という内容)の3編を朗読してくださりました。
来年は戦後70年です。